

本の紹介

「今いき
いきした 公衆衛生活動のために」 全国いきいき公衆衛生の会 編集

山本 和儀／大東市福祉事務所理学療法課 理学療法士

編著を担当した「公衆衛生いきいきの会」は、全国の保健所で活躍する医師、保健婦などの技術者が中心になって、1988年にできた会である。地域でのリハビリテーションに携わる身としては、日ごろより、保健所との連携のたいせつさを切実に感じており、この会が主催する研修会に出席し、本著を手にした。

本著は、第1章 この本を利用するために、第2章 保健所の果たしている役割、第3章 活動活性化のための具体的な展開方法、第4章 機能別にみた保健所の活動事例、第5章 事例の要旨とマトリックス、第6章 公衆衛生の

基本的考え方、第7章 我が国の公衆衛生の現状と課題、という構成になっており、保健所と公衆衛生の歴史、現状、今後の方向について積極的な立場から解説を加えている。

保健所という機関も外からみていると何をしているのかかわりにくい、本著には具体的活動事例の紹介も31例とたくさんあり、保健所をほとんど知らない読者にも保健所の機能について、わかりやすい入門書となっている。また、第3次予防という表現で、随所にリハビリテーションの重要性が述べられており、事例の中にリハビリテーションや、在宅ケアを取り

上げたものもあり、保健所も地域リハビリテーションに、積極的に取り組もうと模索しているようすが伝わってくる。

理学療法士・作業療法士が、地域リハビリテーションに携わる場合には、地域診断や、地域活動という点で50年以上の歴史をもつ保健所から学ぶものは多い。また、本著では、公衆衛生の基本的考えかたにもふれており、「公衆衛生」というリハビリテーションとは違う視点よりの地域のみかたを学ぶことは、地域活動の幅を広げることにつながると思われる。

表や、イラストもくふうされており、読みやすいのも有り難い。
(B5版、157ページ、1800円(消費税込)、社会保険出版社、1989年刊)